

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム みどりの里 西ユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100060		
法人名	株式会社 藤森		
事業所名	グループホーム みどりの里 西ユニット		
所在地	〒028-799 岩手県九戸郡洋野町種市第40地割22番地2		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度、書面にて利用者の近況をお知らせしている。生活面、健康面、施設からのお知らせの項目の他に生活の様子が見える写真を添えている。遠方にお住まいのご家族から「元気そうで安心しました」と言って頂いている。要望があればテレビ電話での対応も行っている。  
当施設では「事故対策委員会」「身体拘束防止対策委員会」「環境衛生委員会」「栄養食事委員会」「広報レク委員会」が組織され全職員が何れかの委員会に所属している。「広報レク委員会」が主体となって季節の壁飾りを利用者と協力しながら作成し飾りつけを行っている。単調になりがちな施設の生活に季節感を取り入れ、利用者の心を和ませている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年3月22日

施設は青森県境に近い閑静な場所に立地し東棟と西棟を建物内で往来できる構造となっており日中は東棟の利用者も西棟のホールで過ごしている。併設して法人が運営するデイサービスがあり在籍する看護師に利用者の体調の変化などについて相談できることが心強い。理念は10年来変わらず職員の拠り所になっており、理念に基づき利用者が安心して生活できるためのケアを実践している。利用者の平均年齢は約90歳、平均介護度も高い方であるが顔色も良く穏やかに過ごしており第二の我が家としている。入居前に寝たきりの状態でおむつを使用していた利用者が、入居後に職員のリハビリ等により寝たきりから解放され、パンツ使用にまで改善され、その処置例を職員で共有して今後に活かすとしている。オールラウンダーな職員が多いことや事業所間の交流が盛んなことも施設の強みである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、玄関、職員休憩室に理念を掲示し、職員が常に確認・意識出来るようにしている。利用者のケアに迷った時は、理念に立ち返り問題解決につなげている。	現在の理念は、開設当初に管理者と職員で作成したもので、何度か見直しの検討を行っているが、当初のままである。理念は、誰にでも目につくよう事務所や玄関などに掲示しており、カンファレンスなどでは、理念を意識し振り返りを行っている。介護で悩んだ時の道標として使っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や地域の行事へ参加している。利用者の高齢化に伴い、外出を希望する方は限られている。感染症対策で現在は外部との交流は中止している。	コロナ禍前は、小学校の運動会や学習発表会に参加したり、町の文化祭に作品を展示し見学するなど、地域活動や地域の方と関わる取り組みを行っていた。また、町内の事業所が持ち回りで認知症カフェを行っていた。管理者は、収束後には外部との交流を再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の社会科見学、中学生の職業体験を受け入れ、認知症への理解を深めてもらう場としたり、地域で開催されている認知症講座でも実践内容を紹介しているが、感染症対策で受け入れを中止している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で定期開催し、施設状況の報告や意見交換、近隣施設での動向などの情報交換、アドバイスを受けているが、感染症対策で書面だけのやり取りとなっている。	令和2年の10月までは隔月で開催していたが、感染症対応のため、現在まで書面開催としている。委員の任期が令和4年3月で終了となるため、新たな運営推進委員を選任した上で、感染状況を確認しながら参集しての会議を開催したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に毎回運営推進会議に出席頂いたり、町主催の会議や研修会にも出席し情報交換を行っていたが、感染症対策で現在は電話でのやり取りのみとなっている。	各種行政情報をメールや広報を通じて入手しており、入居待機者情報も共有している。担当者とは頻りに情報を交換している。町の担当職員は、入居者の課題解決に支援を惜みず、問題解決に向け一緒に取り組む姿勢で関わってくれている。	

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が主体となって身体拘束廃止のマニュアルを整備し、全職員に配布している。委員会の勉強会や定例会議で個々のケアが身体拘束に抵触していないかどうかを検証している。	身体拘束防止・事故対策委員会において、利用者一人一人の注意点を話し合ったり、担当者が作った資料で学んだりしながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、転倒予防のために足元センサーを使用する場合には、家族に現状とリスクを説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の為、内部・外部研修にて勉強会を続けている。グレーゾーンについても具体的な例をあげ日々のケアに問題がないか話し合う機会を設けていたが、現在は書面での勉強会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を一名利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて説明を行い、専門用語を使わない丁寧でわかりやすい説明を心掛けている。改定等の際は文章で連絡し、さらに電話で不明や疑問点がないかを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者の近況を写真を添えてお知らせし、ご意見は会計で来所の際に伺うことが多い。利用者ご本人からの意見・希望を伺うことはなかなか難しい。	介護計画更新の際には本人の意向を確認し、入浴介助などの場面では、入居者と1対1で思いを聴くことが出来ている。利用者の口にするキーワードを書留めて企画に反映したり、席替えなどの参考になっている。家族の意見は、来所時や病院受診の際に伺うことが多い。コロナ禍での面会の要望には、パテーションを用いて対応している。	定期的に家族に報告し、意見や要望も聞きながら事業運営に生かしているが、更に、充足感を覚える話し合いや説明を実施することで、より高い家族からの評価が期待される。取り組みの一考を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会、カンファレンス、ミーティングノート等で意見・提案を出しやすい機会を設けている。各ユニットに、介護リーダー、副リーダーを配置し職員が話しやすい環境を整えている。	会議やカンファレンス、申し送りなどが、職員の意見や提案を聞く機会となっている。排泄の自立の可能性のある方に対し、話し合い支援調整を行い改善した方もいる。また、年2回職員アンケートを実施し、職員の希望や意見等(装飾作成の希望や勤務調整など)も業務に活かしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方アンケートを定期的実施し、職員の希望する勤務条件に出来る限り応えている。子育てしている若い職員が働きやすい様に柔軟に対応している。資格手当・夜勤手当・休日出勤手当・昇給・賞与の支給に努め、介護職員処遇改善加算、特定処遇改善加算を特別手当として支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた外部研修への参加や、法人内研修の開催で外部からの講師を招き学ぶ機会を設けていたが、現在は感染症対策の為、開催していない。毎月の定例会では、勉強会のテーマに沿って職員全員が順番で資料作成し紙面にて発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知所高齢者グループホーム協会に加入し、外部研修や地域会議で同業者との交流がある。現場での困難事例についても参考意見をもらう等、サービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者が利用者ご本人、ご家族から心配事、要望を話やすい雰囲気作りを心がけている。面談や、対話を積み重ねながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談し、不安な事や要望をうかがっている。ご家族が望まれるご本人の生活と今までの背景を詳しく伺う様にしている。入居後は出来るだけ多くの機会にご本人の生活状況を伝え何かあればその都度電話にて相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がアセスメントを実施し、ご本人の出来る事、出来ない事を見極め、ご本人に必要なと思われる支援を居宅支援事業所、地域包括支援センターの担当者とも連携を図りながら検討している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、地域の行事、伝統料理、生活の知恵等を教えていただく事も多い。今出来ていることを継続出来るように利用者の能力に応じた手伝いや役割を任せて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な時には電話で相談したり会計で来所された時に伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人からの要望で町内の理容室に行ったり馴染みの店に買い物に行けるように支援していたが、感染症対策の為、中止している。	コロナ禍前は、地域行事を見たり馴染みの店に出掛けたりしていたが、コロナ禍での感染症対策で出掛けていない。代替え策として、地域の行事(老人会主催の演芸会)やお祭り(ナニヤドラヤ)を、DVDに収録して鑑賞しており、また、職員は利用者から頼まれれば、代わって馴染みの店から購入している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席を性格や相性で調整したり、孤立しがちな利用者には職員が間に入り他の利用者と関りが持てるようにお手伝いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移ったり入院等で退所した時は、担当ケアマネージャーや医療関係者にホームでの生活状況や介護状況を提供している。また、家族や本人からの相談は随時受け対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から伺ったり、それが困難な方には生活状況を観察し情報を職員全員が共有し、提供したサービスを定期的に検討している。日々の生活の中での把握に努めている。	受診や入浴などの支援で、1対1になった時に本人の思いを聞くことが多い。把握が困難な場合でも、本人の視点に立ち、仕草や表情から把握に努めている。難聴者へは、聞き易い声のトーンや雑音を少なくしての対応を行うことで、意向の把握に努め支援している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階でご本人・ご家族からお話を伺ったり、ケアマネージャーからの情報提供してもらう。入居後は、コミュニケーションの中でご本人の言葉、仕草、表情から推測しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕の申し送りで利用者の体調面、食事量、排便の有無等を確認し、職員とともに過ごす中で個々の有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向を確認し計画作成担当者と居室担当者が介護計画の原案を作成している。毎月のカンファレンスで必要に応じてモニタリングを行いプランの見直しを行っている。	本人と家族の意向を確認し介護計画の原案を作成しており、管理者が家族に内容を説明し介護支援を行っている。支援過程での生活の情報を集積し、毎月カンファレンスを行い、6か月毎に計画の見直しを行っている。ケアマネジメントサイクルを実践しながら現実的な支援としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の様子は個別に記録されている。日勤者から夜勤者へ、夜勤者から日勤者へと情報は共有され気づきや変化についても記録を残している。問題が生じた時に記録を遡り解決の糸口になる事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出・外泊の送迎は原則ご家族に協力を依頼するが、事情があり困難な場合には出来る限り施設で対応していたが、感染症対策の為、現在は通院は施設職員が付き添い、ご家族との外出・外泊はお断りしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域ケア会議で情報を頂き、地域のイベントや小学校の行事に参加していたが感染症対策の為、現在は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望する病院へ通院している。多くの利用者は、地元の国保種市病院をかかりつけとしている。職員が受診に立ち合い、受診結果はファイルに記入し職員全員で健康面の情報を共有している。	本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できるように支援している。通院は、3名の方が家族で行い、残り15名が事業所での対応となっている。受診結果は家族に報告しており、家族介助の場合には、バイタルや現状を伝え、受診結果の報告を受けている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内のデイサービスの看護職員に相談しアドバイスを受けられる体制が整っている。緊急時には協力医療機関へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはなるべく病院を訪ね、医師、看護師に治療状況を伺い情報を収集している。ご本人と面会したり、ご家族と連絡や相談をこまめに行っていた。現在は感染症対策の為、電話のみでの情報のやり取りのみとなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	こちらの事業所でできることは、入居契約時に口頭で説明しご理解を得ている。重症化が見られた場合には、かかりつけ医や町内の他施設と相談し、より良い支援を検討している。	入居契約時に事業所でできることを説明し、理解を得ている。痰の吸引など医療行為が必要となった場合には、他の施設の利用も考えていたが、重度化しても環境の変化が適さない場合には、協力医との連携で終末期のギリギリまで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の緊急時対応マニュアルがあり、緊急時にはマニュアルに沿って対応する。施設にAEDを設置し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時マニュアルがあり、職員は年2回の避難訓練を消防署の指導を頂き実施している。夜間の避難手順を職員間でシミュレーションし緊急時に備えている。	職員は日中と夜間想定年2回、運営推進会議委員による避難者の見守り支援を得ながら、総合訓練を実施している。法人内事業所間での支援協力体制も整備されている。災害に備えた備品等の備蓄として、食材を1週間分確保し、ガスコンロ、反射式ストーブも用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の会話や申し送りの際には、利用者の耳に入らないように配慮している。入浴・排泄介助等には誇りや自尊心を損ねる事がない様に言葉を選んで対応している。	職員が発する言葉の内容や語調等が、利用者を傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならないために、職員間で声掛けし、隣のお母さんに話すような心掛を浸透させている。カンファレンスの資料に言葉掛けの失敗例や成功例を記述し職員間で情報を共有し支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を言いやすい状況や場所などに配慮している。普段は言葉が少ない利用者が居室で職員と一対一になると楽しく冗談も言ったりするので、個々に向かい合える時間を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴などの基本的な生活時間は概ね決まっているが、その時の本人の体調やペースを大切に無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、理容店に出張してもらい散髪をすることが出来る。現在は感染症対策の為、職員が散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や調理をする事は難しくなっているが、利用者と職員が同じ食事をする事で味や盛り付け等について会話が広がっている。ご自分のお膳を食後に下げてくださいる利用者さんがいる。	介護度が高くなっている状態から、一緒に食事の準備や調理をする事は難しくなっているが、テーブル拭き程度の片付けは手伝っている。楽しく食べる工夫として、季節ごとの行事食や園庭で取れたトマトなどの野菜を食したり、地域特産の海産物などをメニューに入れ提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の行動表で食事量や水分量を把握している。咀嚼力、嚥下力、体調や健康状態に合わせた食事形態で提供している。食事が十分に摂れない方には補食等に対応している。箸、スプーンが使えない方には一口大のおにぎりにして手で掴んで食べることが出来るように提供している。		



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを勧めている。一人では歯磨きが十分に行えていない利用者には、仕上げ磨きを行っている。義歯は毎晩義歯洗浄剤に浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄パターンや回数を把握し、その方に合ったタイミングで声掛けしトイレに案内している。必要に応じて見守りや介助を行っている。日中に失敗のない方には、夜間だけリハビリパンツを使用して頂く等している。	排泄チェック表を活用し、入居者の状態に応じたタイミングで声掛け前誘導をしている。羞恥心が強い方には、信頼関係を作っていくなかで、支援を受け入れていただいたり、拒否が強い方には、入浴回数を増やし、それとなしに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や乳製品、食物繊維の多い食品の献立作りを心掛けている。毎日の軽体操の時間で無理のない範囲で体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴を基本として職員が声掛けや入浴介助を行っている。その日の体調や病院受診などに合わせた日程調整が行える体制を整えている。	入浴は週2回だが、毎日の入浴も可能である。入浴を嫌がる場合には、誘い方を工夫したり、別の日に振り替えたり、臨機に対応している。くつろいだ気分に入浴できるよう、入浴剤を使用したり、DVDを持ち込み歌ったりしている。職員との掛け合いで寛いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換やベッドメイキングでいつも気持ち良く休む事が出来る環境を整えている。夜間眠れない方には、温かい飲み物を飲んで頂く、お話を伺う等個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット別に服薬一覧表を作成し、内容を確認しながら準備している。配薬から服薬まで5段階の確認者がおり、薬の目的、副作用、留意点等医師、薬剤師からの指示等が共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみやカーテンの開け閉め、テーブル拭き等、それぞれが得意な事を行って頂いている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には、町内の理容店への外出の支援や季節での花見や病院受診時に買い物職員と一緒にいたりしていた。利用者やご家族の希望で外出や外泊も出来るように支援していたが、感染症対策の為、現在は全面的に中止している。	温かい時には、短時間でも園庭など外に出るようにしている。また、天気の良い時には、午後の時間に外で体操を行う事もある。町内の理容店で整髪希望者には外出支援している。コロナ禍が収束した折には、浜を見ながらアイスクリームを食べたり、家族の協力で自宅を見に行ったりの対応を行いたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布や現金をお持ちの方もいるが、事務室でお小遣いをお預かりし、希望の物や必要品をその都度購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	感染症対策での面会制限実施で、ご家族から電話で声を聞きたいという要望が増えた。個別対応でテレビ電話での要望にも出来る限り対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の行き届いた清潔な空間を心掛けている。除菌電解水供給装置を導入し、消毒、消臭に努めている。レクリエーション委員会が率先し、壁飾りに季節を感じられる飾りつけをしている。	入居者が過ごす団欒のスペースとしての食堂兼リビングには、食事用テーブル、ソファ、テレビなどを配置しており、お話が好きな者同士、静かに過ごしたい方など、各々に過ごし易いよう配慮している。壁には、入居者の作品や季節感のあるものを取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置の仕方、テレビを集中して見たい方、お話が好きな方同士、静かに過ごしたい方とそれぞれが快適に過ごす事が出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきてもらうように声を掛けている。家族の写真や思い出の品々を見やすい配置で飾っている。各居室の担当職員が定期的に整理整頓を行い、清潔で居心地の良い空間を提供出来るように努めている。	事業所は、沿岸の丘陵地にある為、夏場には心地よい風が入る。床暖房、扇風機で温度管理され、居室には、ベッド、衣装用の箆笥が置かれており、本人の馴染みの物が持ち込まれている。掃除が行き届き小奇麗である。	

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が迷わないように、トイレ、浴室等に大きな文字で案内板を掲示している。廊下から居室への手すりが設置され安全に移動出来る環境になっている。居室内のベッドや筆筒の配置にも利用者個別の状態や寝る姿勢を考慮している。		